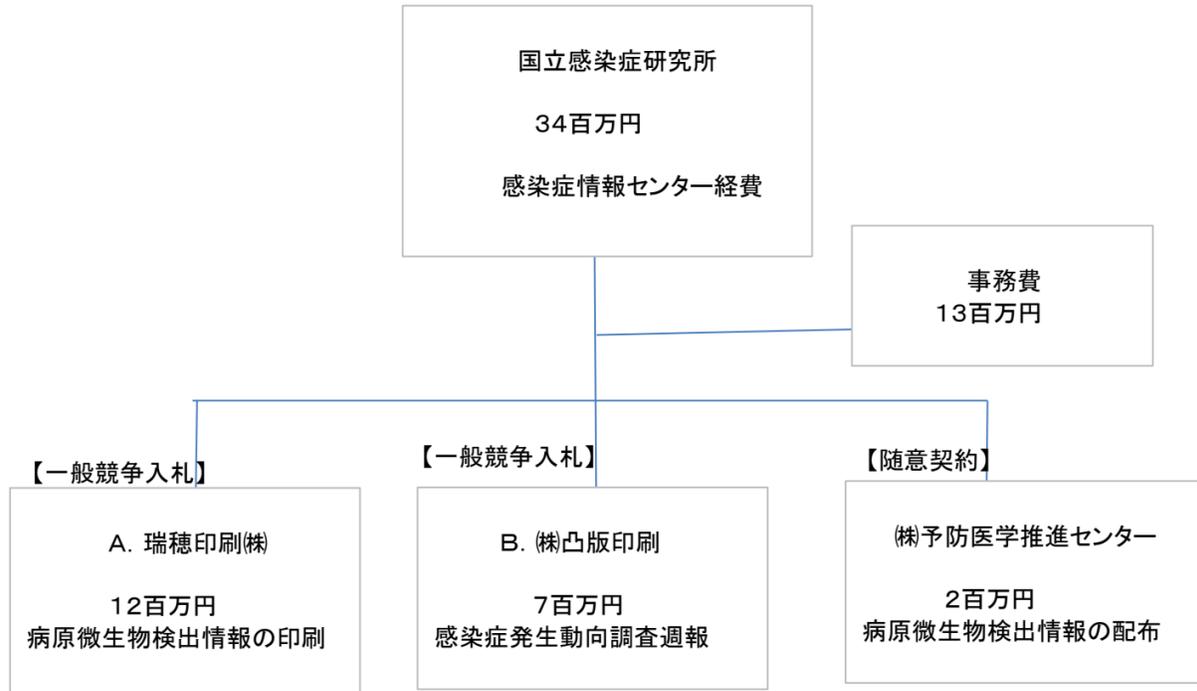


平成23年行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	感染症情報センター経費	担当部局庁	国立感染症研究所	作成責任者			
事業開始・終了(予定)年度	平成9年度	担当課室	総務部会計課	課長 星野 真			
会計区分	一般会計	施策名	VI-3-4 国立試験研究機関の適正かつ効果的な運営を確保する				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	—	関係する計画、通知等	—				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	感染症法に基づく感染症発生動向調査における中央感染症情報センターの運営を図り、様々な感染症情報の収集、分析及び公表を行って感染症対策に資する。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	(1)サーベイランス(感染症監視)事業 1. 感染症発生動向調査システム運用と週報編集発行 2. 病原体検出情報システム運用と病原微生物検出情報編集発行 (2)感染症予防治療情報システム事業 感染症にかかる治療情報等のwebによる発信						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
	予算の状況	当初予算	74	74	34	41	48
		補正予算					
		繰越し等					
		計	74	74	34	41	48
	執行額	74	45	34			
執行率(%)	100.0%	60.8%	100.0%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
	(1)感染症週報(IDWR)を毎週発行する。	成果実績	号	52	53	52	52
		達成度	%	100%	100%	100%	
	(2)病原微生物検出情報月報(IASR)を毎月発行する。	成果実績	号	12	12	12	12
達成度		%	100%	100%	100%		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	(1)都道府県から報告される患者情報を確認し、集計解析して関係機関及び国民に情報を提供する。	活動実績 (当初見込み)	患者報告件数	全数38,227 定点2,874,886	全数48,861 定点4,847,207	全数36,485 定点2,797,053 (全数30,000 定点2,500,000)	— (全数30,000 定点2,500,000)
			病原体報告件数	個票18,878 月報7,718	個票47,843 月報6,426	個票24,678 月報5,687 (個票20,000 月報5,000)	— (個票20,000 月報5,000)
			WEBページアクセス数	4,000~5,000 万頁	4,000~5,000 万頁	4,000~5,000 万頁 (4,500万頁)	— (5,000万頁)
(2)地方衛生研究所・検疫所から報告される病原体検出情報を確認し、集計解析して関係機関及び国民に情報を提供する。							
(3)感染症に関する患者情報、病原体情報、予防治療情報をインターネットで国民に広く提供する。							
単位当たりコスト	0.75(円/ページアクセス数)		算出根拠	事業の目的とする感染症減少の活動指標は(1)と(2)が減ることであるが、21年度には新型インフルエンザ発生などで大きく増加しており、コスト換算はできない。22年度予算額を(3)の年間のページアクセス数で割った単位当たりコストを算出した(アクセス数は概数)。			
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由			
	ソフトウェア改良費	4	9	本省のNESIDのリプレースに対応するためのソフト改良			
	備品・消耗品費	3	3				
	印刷製本費	5	5				
	通信運搬費	1	1				
	賃金	11	13				
	雑役務費	10	10				
	システム借料・保守料	7	7				
計	41	48					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>(1) 感染症サーベイランス事業の成果物は関係者及び国民に広く利用され、活動実績を挙げている。しかし、24年度にはNESIDシステムリプレイス、届出入力項目の追加変更のために業務量が増えるので、それらに対応しながら業務を継続するためには経費増額が必要である。新型コロナウイルスや震災時の感染症など有事に対応するBCPの観点では22年度、23年度の予算では不十分であったが、24年度はNESIDリプレイスへの対応を最優先事項として予算増額要求をしている。</p> <p>(2) 感染症予防治療情報システム事業では23年度にWEBシステム更新のための競争入札を行なう。24年度はリリース2年目となるので、システム維持のため23年度と同額の予算が必要である。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
現状通り	<p>感染症発生動向調査システム運用と週報編集発行等に必要な経費であるが、事業の必要性及び執行の観点からは概ね妥当であり、引き続き効率的な執行に努めること。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
—			
補記(過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

※平成22年度実績を記入



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

A.瑞穂印刷株			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
印刷費	病原微生物検出情報の印刷	12			
計		12	計		0
B.株凸版印刷			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
雑役務	感染症発生動向調査週報のPDF化業務	7			
計		7	計		0
C.株予防医学推進センター			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
雑役務	病原微生物検出情報の配布業務	2			
計		2	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者につい
 て記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	瑞穂印刷(株)	病原微生物検出情報の作成	11.71	1	82.41
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)凸版印刷	感染症発生動向調査週報のPDF化業務	7.33	1	90.42
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

C.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)予防医学推進センター	病原微生物情報の配布業務	1.43	随意契約	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					